

仲良く一緒に田植え

～全校田植えより～

令和5年6月5日(月)



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第35号 —
2023.6.23



鳥居強右衛門が走った道

校長 林 幸康

六月四日放送のNHK大河ドラマ「どうする家康」に、鳥居強右衛門の活躍が描かれていました。私が認識していた強右衛門の人物像とは少し違う描かれ方をしていましたが、とにかく強右衛門は、絶体絶命の長篠城を救うため、武田の包圍網を突破して、岡崎城の家康のもとへと激走していました。

強右衛門が走ったとされるおよそ片道六十五キロメートルの道のりのうち、岡崎市内の十キロメートルほどは『道根往還』と呼ばれ、今なお歩く（走る）ことができます。五月の初めに学区を探索している際に、岡崎霊園近くで、この『道根往還』の看板を見つけたときは、「これは何？」と思う程度でした。その後、何度もこの看板に出会うにつれて気になり出し、いろいろ調べてみると、強右衛門が走った道であることが分かり、がぜん興味がわきました。岩中地区でも、『道根往還』の看板を見つけた頃は、折しも「どうする家康」で、長篠の戦が迫っており、集会話のネタにさせていただきました。

集会話での子ども達の反応は、思った以上で、地域の歴史への興味の高さを感じました。これも調べて分かったことですが、数年前には、六年生が『道根往還』について授業で取り上げていたようです。さらに、地域の福寿会が、定期的に清掃活動をしているということも分かりました。常磐南学区を通る『道根往還』は、知る人ぞ知る地域の宝物だったんだと気付かされました。

今「どうする家康」効果もあり、岡崎への注目度も、子ども達の歴史への興味もとても高くなっています。地域に残る旧跡である鳥居強右衛門が走った『道根往還』を、子ども達と共に、これからも地域の宝として大切にしていきたいと思えます。